

# 日野・生活者ネットワークニュース

2013年4月20日発行

No.114

●生活者ネットワークは、市民主体のまちづくりを実現するため、市民と議会、行政をつなぎます。市民の視点で、情報公開をすすめ、市民と共に、行政を変えていきます。

●発行/日野・生活者ネットワーク

〒191-0032 日野市三沢1-26-9-I-102 TEL:042(593)9433 FAX:042(593)9414  
E-mail:hino-net@cap.ocn.ne.jp URL:http://hino.seikatsusha.net/

●発行責任者/出沼恵美子

古池はつみの活動が携帯でも見られます



## 議会一般質問

### 子どもの食物アレルギー事故を防ぐ対策を！

日野・生活者ネットワーク市議会議員

#### 古池はつみ

昨年末に、調布市の小学校で食物アレルギーを持つ児童が学校給食が原因でなくなる事故がありました。日野市でも重篤なアレルギーを持つ児童がいる中、事故を防ぐための対策とマニュアルの見直しについて質問しました。

#### 子どもたちへのアレルギー教育を！

- 1 学校や保育園、学童での食物アレルギーに対する対応について
- 2 緊急時の対応や処置方法について
- 3 食物アレルギーに対する相談医の配置への市の考え
- 4 子どもたちへのアレルギー教育について
- 5 マニュアルの見直しが必要。今後の検討について



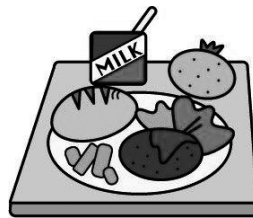
日野市は、学校、保育園、学童で別々にマニュアルを作成し、まずは事故が起こらないようにきめ細かく記載し、実行しています。例えば、食器の色を変える、名前を食器の下に貼るなど、除去食がその子に間違いなく届けられるよう対応しています。

しかし、事故が起こった時の対応については、重篤な場合、少しの間アレルギーをおさえるエビペンの投与が必要になります。あくまでも本人が行うものとし、詳細な記載がありません。担任がいない時の対応も含め、誰がどのような経路で、どんな確認のもとで行うのかなど、命に関わることなのできめ細かい見直しが必要と要望しました。

相談医については、児童の担当医との連携を図ることを重要視していることから考えていないようです。市立病院と連携し、児童、保護者、教職員が安心できるように対応したいとのことでした。

同時に子どもたちへのアレルギー教育について、周りの子どもたちの理解も必要でいざという時に助けられることにつながるの提案しました。「個人の疾病の取り扱いには保護者の意向もある、学習の重要性や児童への働きかけは

有効であり、検討したい」とのことでした。



保育園では保育士によるエビペン投与もせざるをえない状況を考え、いざという時には園医に相談をしてから対応することや、救急車の要請もマニュアルには記載があります。

今後マニュアルの見直しについては、学校、保育園、学童などお互いの対応が異なることのないよう、事故の防止と起きた時のきめ細かい対応を強く要望しました。特に学童においては、正規の職員がいらないことから誰がどのように動くかも含め、検討して欲しいものです。

最後に、アレルギーを持つ児童、生徒がこのことでのいじめにあわないよう配慮してほしいこと、周りの児童、生徒が助けることができるような体制づくりを要望しました。

#### 女性の視点で防災計画の見直しを

日野市は、2014年3月までに地域防災計画の見直しを行います。そこでこれまでも要望してきた、女性や子どもの視点をとり入れること、原子力災害への対応を盛り込むこと、他の自治体との連携を強化することなどについて質問しました。

#### 3月議会からの報告

##### ◆日野市工業振興条例の制定

市内事業者、中小企業者を中心に実態調査を行い、支援できる内容を整理し、大学や金融とのマッチング、市民にも工業の見える化を推進するなど、工業振興のために市、事業者、市民の役割を確認してすすめる条例です。

##### ◆『小島善太郎記念館』の開設

晩年を百草で過ごした洋画家小島善太郎画伯の居宅、アトリエ、庭を一体として記念館を開設します。

画伯の作品やゆかりの品を展示し芸術文化の新たな拠点としていくものです。

##### ◆街路樹キーパー制度

街路樹の維持管理や緑化活動のボランティア制度。市が道具の貸出やボランティア保険の加入などのサポートを行います。

##### ◆日野市ごみ広域化問題について

日野ネットは、ごみ減量に向け、焼却施設の小規模化を求めてきましたが、新たな広域化については、今後、小金井ネット、国分寺ネットと各市のゴミ行政の情報交換をしながら、全体を捉え学習・情報提供をしていきます。

4月14日に行われた市長選挙では、おおつぼ冬彦氏を、市議会議員補欠選挙では鈴木かつとよ氏をそれぞれ推せんし、応援しました。今後当選した2人と共に、政策を実現するために活動します。

